

全国の自治体初！国文学研究資料館との古典籍データベース構築

1. 概要

中津市・中津市教育委員会は、11月13日（水）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館（東京都立川市、ロバート キャンベル館長）と同館が構築する「新日本古典籍総合データベースの構築協力に関する覚書」を締結いたします。同事業に市町村が参画するのは全国で中津市が初めてのことです。

2. 新日本古典籍総合データベースについて

国文学研究資料館は、平成26年度から開始された「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に基づき、「新日本古典籍総合データベース」(<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>)の構築を進めています。この事業は、各地の重要な古典籍を高精彩に撮影し、インターネット上で公開するというもので、事業を通じて、日本及び世界各国の古典籍研究者の研究に貢献しています。

3. 中津市が参画することの意義

江戸時代の中津藩は蘭学を奨励し、『解体新書』の編著者である前野良沢や、日本初の日蘭辞書『蘭語訳撰』を編さんした奥平昌高らを輩出しました。現在でも中津に伝わった蘭学や医学に関する貴重な資料を納めた、医家史料館が2館存在しています。これら史料館が所蔵する史料は通常、展示や事前申請による閲覧以外では市民のみなさんに触れていただく機会がありませんでした。当事業に協力することにより、市が所蔵する貴重な資料群をカラー・デジタル画像にて公開し、幅広く利用いただけるようになります。撮影は平成29年度より開始し、本年度は44点の公開を予定します。また中津市歴史博物館は、本事業の中核を担う施設として機能し、博物館の施設を利用して順次撮影を実施するほか、博物館開館の際にロビーにデータベースを閲覧できる端末を設置し、来館者にも触れていただく予定です。

4. 覚書の締結式

中津市歴史博物館の開館を記念して、国文学研究資料館のロバート・キャンベル館長と奥塚正典中津市長、粟田英代中津市教育長により本覚書の締結式を開催します。

■覚書締結 国文学研究資料館長 ロバート・キャンベル 氏
中津市長 奥塚正典
中津市教育長 粟田英代

■日時 令和元年11月13日（水）13時00分～

■会場 中津市歴史博物館 ロビー

5. トークセッション

調印式ののち、ロバート・キャンベル館長と、ヴォルフガング・ミヒエル九州大学名誉教授が、「地方の資料が語るもの」と題して、60分程度のトークセッションを行います。

■日時 令和元年11月13日（水）調印式終了後

■会場 中津市歴史博物館 ロビー（申込不要・参加無料）

ロバート・キャンベル 氏（※別紙参照）

1957年、アメリカ・ニューヨーク生まれ。ハーバード大学大学院を修了後、九州大学へ留学。九州大学文学部講師を経て国文学研究資料館助教授、東京大学教授を経て国文学研究資料館館長に着任。専門は近世から明治期にかけての漢文学。メディアでも活躍し、日本テレビ「スッキリ」では火曜日のレギュラーコメンテーターをつとめる。

ヴォルフガング・ミヒエル 氏

1946年、ドイツ・フランクフルト生まれ。フランクフルト大学大学院終了後、1974年に来日。九州大学外国人教師から同大助教授、同大学院教授、研究院長、副学長を歴任。現在は九州大学名誉教授。2004年には、ドイツ連邦共和国功労十字勲章受章。専門は日欧交流史・医史学。中津市においては17年の長きにわたり医家史料館の史料調査を行い、毎年、報告書（現在18巻）を刊行している。



【問合せ先】

教育委員会社会教育課文化財室

担当：曾我（TEL：0979-23-8615）

第8号

2017年
6月発行

CONTENTS

事業四年目を迎える

国文学研究資料館 館長
ロバート キャンベル

1

日本古典籍の新しいプラットフォームの誕生

国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター長

2

「新日本古典籍総合データベース」の公開開始

古典籍共同研究事業センター 特任助教

井黒 佳穂子

同センター 特任助教

松田 訓典

同センター 研究員

5

共同研究「日本古典籍の書誌概念と書誌用語の国際化」について

国文学研究資料館 教授

8

江戸の料理本をお手元に

10

第3回 日本語の歴史的典拠国際研究集会を開催します

11

トビックス

12

ふみ

「日本語の歴史的典拠の
国際共同研究ネットワーク
構築計画」ニューズレター



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
古典籍共同研究事業センター

事業四年目を迎える

国文学研究資料館 館長

ロバート キャンベル



大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典拠の国際共同研究ネットワーク構築計画」も、はや四年目を迎えました。三〇万点におよぶ明治以前の日本の書物(歴史的典拠)をウェブ上に全冊公開し、その書物をもとにいろいろな分野の研究者が互

いの研究成果を持ち寄り、討議を重ね、新たな研究の枠組みを創っていくこの試みも、少しずつ成果が出てきています。古き時代の書物は、その取り扱いが難しいと思われるのか、なかなか手に取ることができないでしょうし、身近に存在する訳ではありません。しかし、そのなかに書かれていることを読み解いていけば、現代社会にも通じるさまざまな情報が溢れているのです。それは国文学分野のみならず、情報工学や天文学など、ありとあらゆる分野に涉っています。ウェブ社会の到来により、研究者だけではなく市民の方々も、煩雑な手続きを経ることなく、いつでもどこでも自由に歴史的典拠に触れていただけるようになりました。当館にこの四月に館長として就任し、こうした歴史的典拠をもっとさまざまな分野の方々に活用してもらえないか、様々に思案をしています。今後の本事業の進展にご期待いただくとともに、一層のご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。